

「特別活動」活動案

平成 27 年 6 月 10 日 (水)

対象児童 3~5 年 14 名

(1)テーマ

「ビー玉迷路を作ろう！」(1)

(2)活動のねらい

- ・設計図を描くことで、完成図を想像し、活動の見通しを持つ。
- ・自分で仕掛けのある迷路を作ることで、空間認識能力を養う。
- ・班を作って活動することで、友達とコミュニケーションをとり、楽しんで作る。

(3)準備物

段ボール板 (30cm×20cm)、段ボール帯 (太)、段ボール帯 (細)、工作用紙、設計図用方眼紙、ビー玉、ボンド、はさみ、ストロー、つまようじ、色紙、サインペン、ビー玉迷路 (指導者が試作したもの)

(4)展開

時間 (45 分)	児童の活動	指導者の支援
15:55	○勉強タイムから特別活動へ移行する。 ・日直が特別活動開始の号令をかける。 ・学習用具を片付け、指導員の話をお聞きする。	●勉強タイムから特別活動へ切り替えができるように言葉掛けをする。
16:00	○ビー玉迷路の作り方の説明を聞く。 ・準備物について知る。 ・次回も作れることを知り、活動の見通しを持つ。	●ビー玉迷路の作り方を説明する。 ・準備物の説明をする。 ・次回も引き続き作れることを伝える。
16:05	○班を作る。	●準備物を配布する。 ☆個人に配布するもの ・段ボール板 ・工作用紙 ・設計図用方眼紙 ・ビー玉 ・ボンド ・はさみ ☆班ごとに配布するもの ・段ボール帯 ・ストロー ・つまようじ ・色紙 ・サインペン
16:10	○設計図を描く。	●適切に援助・言葉掛けをする。

16:40	<ul style="list-style-type: none"> ・仕掛けを考えながら、迷路の設計をする。 ・書き終わった子から、実際に作り始める。 <p>○迷路を作る。</p> <p>○片づけをして帰りの準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計図がうまく描けない子に対する支援。 ・「一緒に面白いものを作ろう」という姿勢で子どもたち一人ひとりの考えを受け入れ、たくさん褒める。 <p>●活動を続けた子の気持ちを理解しながら、次回もできることを伝え、帰りの準備をするように促す。</p>
-------	---	--

[活動を終えての感想（成果及び課題）]

今回と次回の連続で行うことや、全員に充分作り込んでほしいという思いから準備物を考えた結果、仕掛けを作るのに役立つであろうストローやつまようじといった既製品の購入の他に、迷路の床になるダンボール板(20cm×30cm)と、迷路の枠になるダンボール帯(約3.5cm幅)を作成し、準備することにした。結果、子どもたちは一人ひとつ与えられたダンボール板と工作用紙とボンド、たくさんのダンボール帯やストローやつまようじを使って、生き生きと活動してくれていたように思う。一人ひとつ確実に用意されていることや豊富に材料を用意しておくことの必要性と重要性を強く感じた。

また、指導者が前日にビー玉迷路を試作して持って行ったのだが、実際に実物を見て仕掛けを触って遊んでみることでイメージが湧いたようで、試作品を何度も見に来たり、自分のそばに置いて見ながら作ったり、アイデアを自分の迷路に取り入れたりする姿が見られた。試作品を見せてしまうことで子どもたちの自由な発想を奪ってしまうことになるのではないかと不安だったが、なかなか自由に作るということが難しく、迷路の枠を取り付けてから先に進めない、道や仕掛けを作れない子どもが「こんなふうにしてみようかな」と真似ることができるという点で、良かったと思う。「みんなのアイデア次第でいくらかでも面白いものが作れるよ。先生より面白い迷路を作ってね」と言葉掛けをした結果、試作品を見ても先入観にとらわれることなく、試行錯誤しながら熱心に取り組む姿が多く見られた。

ただ、やはり設計図を描くのは難しかったのだと感じる。設計図を描いてから作り始める子もいたが、半数以上の子は実際に作りながらイメージを膨らませているようだった。「作ることを楽しんでほしい」というのが最大の目標だったので、子どもたちがたくさんの笑顔を見せてくれたことが何より良かったと思う。

「特別活動」活動案

平成 27 年 6 月 10 日 (水)

対象児童 3~5 年 22 名

(1)テーマ

「ビー玉迷路を作ろう！」(2)

(2)活動のねらい

- ・実際に作っていく上でうまくいかない時に、臨機応変に対応する力を養う
- ・自分で仕掛けのある迷路を作り、空間認識能力を養う
- ・班をつくって、楽しんで作る
- ・作品で遊んで達成感を味わう

(3)準備物

段ボール板 (30cm×20cm)、段ボール帯 (太)、段ボール帯 (細)、工作用紙、設計図用方眼紙、ビー玉、ボンド、はさみ、ストロー、つまようじ、色紙、サインペン、ビー玉迷路 (指導者が試作したもの)

(4)展開

時間 (40分)	児童の活動	指導者の支援
16:00	○班ごとに前回の迷路を取りに行く	●順番に取りに行くように促す
16:05	○ビー玉迷路作りを始める	●作成があまり進んでいない児童を中心に援助する
16:30	○出来上がった迷路で遊んでみる 友達の作った迷路でも遊んでみる	●一緒に遊んでみてがんばったところ、工夫できているところなどをほめる
16:40	○片づけをして帰りの準備をする	●片づけの準備を促す